

# みんなの目・芽・めっ No.114 2022年/3月

発行 特定非営利活動法人住みよいあさくらをめざす風おこしの会 理事長 星野洋子 事務局 別府 ☎ 0943-72-4152

多様性を認め合う地域づくり

## 第31回 風おこしフォーラム 開催 待っています！ あなたの出演！

日時：2021年12月5日(日)13:30～15:40

会場：筑前町男女共同参画センター リブラ 2F ホール

第1部 基調講演 13:40～ 「～男女共同参画とジェンダー平等～」

講師：福岡県男女共同参画センター「あすばる」センター長 神崎智子さん

第2部 パネルディスカッション 14:10～

「～ジェンダー平等の地域社会をつくる～ 私ではければ…」

パネリスト： 篠崎英一さん 朝倉地域コミュニティ協議会会長

大庭きみ子さん 朝倉市議会議員

寺原裕明さん 筑前町議会議員

師岡愛美さん 風おこしの会 副理事長

アドバイザー： 神崎智子さん 「あすばる」センター長

コーディネーター： 中嶋玲子さん 福岡県議会議員



続くコロナ禍の中、会場は170人収容の所を40名の限定。「ジェンダー平等」を視点に基調講演とパネルディスカッションを開催しました。

前段の基調講演や連続講座で出てきた課題や気づきをさらに進めて「誰もが暮らしやすい地域社会とはどんな社会なのか」と各パネリストの方々、それぞれの立場からの思いや考えを聴き、私たち一人ひとりがとるべき行動について、多くの示唆をもらったフォーラムになりました。

また、朝倉市長、筑前町長には来賓出席をいただいております。(コロナ・災害等で難しい局面に入っている。多様な立場からの意見で仕組みを創っていききたい。SDGsでコロナがクローズUP、大変革を求められている等)と最後に市政・町政への力強い思いを語っていただきました。

行政と住民の連携。人任せではなく、それぞれの立場と責任でアクションを起こすことが重要。それは誰のためでもなく今を生きる私たちのためであり、次代へ繋いでいく大きな力になると感じました。

久々の筑前町での開催で多数の筑前町の方にお会い出来た良い一日となりました。

(星野洋子)



## フォーラム終了後、参加者のみなさまにアンケート(感想)をいただきました。

### 【基調講演について】

- ・勇気が湧いてくる話だった。やってみようという気になった。
- ・男女共同参画とジェンダー平等の違い、参画の意味がはっきり分かった。
- ・何かをやりたい人、できる人に場と機会を与えることは大事だと思った。
- ・わかりやすくよかったが、でもまだまだ女性がしっかり学ぶべきと思う。
- ・男女共同参画の復習になった。しかし年月を経てもなかなか成果が上がらないことが残念。

### 【パネルディスカッションについて】

- ・私もいろんな会議の席で発言したことを反省してしまうが、言わずに後悔するよりも言って後悔する方が良いと安心した。
- ・私も勇気をもって一歩進み、自分の意見をきちんと伝えるようにしていきたい、古い習慣を変えていくのが大事と思った。
- ・パネラーに地域以外の若い人を入れると外の視点が入ってよかったのでは？
- ・パネラーの「ジェンダー平等の社会化はあわてず 100 点主義ではなく 80 点主義で」は説得力があった。
- ・人々の意識が変わらず古い慣行もあり難しいが、若い世代に大いに期待する。
- ・懲りずに啓発すること、クォータ制を国や県だけでなく地域も取り入れることが大事と思う。

### 【企画・進行について】

- ・手作り感あふれ、大変良かった。      ・20代 30代の参加が増えるように工夫してほしい。
- ・小中高生への学びの機会があれば保護者も関心を持ってくれるのではないかな。
- ・町長・市長が最後まで聞いてくれてよかった。

**紙面に収まらないほどのご意見や感想をいただき、ありがとうございました。男女共同参画とジェンダー平等を実現するために、できることをひとつずつ、地道に取り組んで行こうと再確認したフォーラムでした。**



## 【講師派遣研修報告 演題:時代をつなぎ地域と共に～私たちの近年の取組】

さる3月17日(木)14:00～筑後市北部交流センターで開催された、「令和3年度筑後市公民館連絡協議会校区公民館長・町内公民館長研修会」において、風おこしの会理事長星野洋子が研修講師を務めました。

新型コロナウイルス感染症の拡大により、令和2年3月の研修を最後に、全員一堂に会しての研修は2年ぶりだそうです。しかも、毎年この時期の研修は年間事業の実践報告が主であったのが、新型コロナウイルス感染症の蔓延により、公民館事業もほとんど中止せざるを得ず、今回は講師を招聘しての研修(「風おこしの会」の活動を知り今後につなげたい)となったのだそうです。公民館連絡協議会の田中副会長のはじめのことば、表彰状の贈呈式、樋口会長のあいさつに続き、星野理事長の講演がありました。

星野理事長から、「風おこしの会」は30年前に有志により「生涯学習をすすめる甘木朝倉女性会議」として発足し、9年前に法人格を取得し「特定非営利活動法人住みよいあさくらをめぐす風おこしの会」として市民と行政の協働により朝倉市郡の男女共同参画を進めてきた略歴の説明がありました。さらに2017年の九州北部豪雨で甚大な被害を受けた朝倉市で、被災した母子を支援する「朝倉きずなプロジェクト」にいち早く取り組み、その後は「豪雨災害の実際を知る、災害を生き抜く力をつける、避難所運営ゲーム等」の連続講座、東北の震災と熊本震災を経験し親子ともに防災士資格を持っていらっしゃるお二人を招いての風おこしフォーラムの開催等を説明しました。地域の役職の方々にとって、豪雨や震災等の自然災害への対応は切実な問題であるでしょう。濁流に呑み込まれる朝倉市松末地区の写真がスクリーンに映し出されると、視聴者はみな息を飲み、身を乗り出すように写真に見入り、話に聞き入れられました。

研修会には校区公民館長・地区公民館長65名が出席され、そのうちの4名が女性でした。樋口会長さんはあいさつの中で男女共同参画について触れられましたし、講演後の会場からの質問では、ある男性から「災害時の避難所運営には女性の参画が大切であることはもちろんだが、災害時だけではなく日ごろから男女共同参画をすすめるにはどうしたらよいか?」という質問もありました。「これはなかなか一朝一夕にはすすみませんが、あきらめず地道に取り組むしかありません」という理事長の言葉にみんな深くうなずきました。

筑後市は東西南北に広く開けた平野部にあり、急峻な山と筑後川にはさまれた中山間地域に住む私には新鮮な景色。筑後市北部交流センター(愛称チクロス)は建設から5年目のまだ新しい建物で、地元出身の画家の油絵の大作が壁面を飾り、「あそびのひろば」や「こどものためのえんげきのひろば」等、子育て支援にも力を入れておられるようでした。ぜひまたいつか訪ねてみたい地域です。(高木静子)

### ～風の音～

あっという間に冬が駆けぬけ、モクレンやコブシの白い花が青い空に向かって咲き誇っています。桜の開花ももうすぐですね。

私が勤める地元企業では、新卒採用に力を入れており、毎年4月には新入社員が入社します。ちょっと前まで若者たちのことを「新人類」などと呼んでいましたが、コロナ禍でIT化がこうも進むとアナログ人間のおじさん・おばさんたちはPCやスマホの扱いに慣れた若者たちが頼りです。この前高校や大学を卒業したばかりの我が子と同じ年頃の子どもたちですが、なかなか頼りになります。

会社では1人1台PCとiPadを支給され…いや、していただき、やれWEB会議だのデータ化だのと言って、なくてはならない道具となっています。つい最近、社内のソフトウェアを強制的にマイクロソフトからグーグルに移行することになりました。個々で設定しろと言われ、やってみました結局堂々巡りでフリーズしてしまいました。優しく対応してくれそうな若者にすり寄って、猫なで声で「ねえ、これ動かんくなったっしょけど、どうしたらいいと?」プライドも何もあったもんじゃありません。説明しても理解するのに時間がかかるとか、サクサクっと事態を收拾してくれてケロッとしている若者たち。すごいなあ。時代は変わったんだなあ。と心から思う今日この頃です。

4月には、また新卒の新入社員が7名入社します。今や即戦力ならぬ即先生。ついていくのがやっとのおばはんですが、新しい風をおこしてくれる世代の台頭が楽しみです。アナログなら絶対負けないんですけどね。(永野ゆかり)

## 【SDGs勉強会 十(プラス)】

2〜3年ほど前からSDGsという言葉をよく耳にします。また、丸いピンバッジを襟元につけている方々が私たちの周辺でも目につくようになっていますが、SDGsって何なのか明確に理解できていない私たち。そこで2月22日に朝倉市人権同和対策課 人権・同和教育係長の岩下善美さんにSDGsについて担当課としての視点からお話を伺いました。

「SDGs」とは Sustainable Development Goals (持続可能な開発目標)の略称です。人類が抱える大きな課題である気候変動や格差の拡大などを解決し、地球を次の世代につないでいくために2015年9月、17の具体的な目標が国連サミットで取り決められ2030年を目指し国際社会は一致団結してこの目標を達成することに合意しました。

SDGsへの取り組みは国によってかなり差がありますが、日本は重要政策課題として位置づけ政府が積極的な姿勢を示しています。2019年度の行動計画作成の後、2020年からは新型コロナウイルスの感染症の拡大によって企業、自治体、ジェンダー間の格差や子どもの貧困率など、日本国内でも様々な既存の課題が一層浮き彫りになりましたが、世界のこれまで進んでこなかったデジタル化が急速に進むなど、社会が変わっていく確かな予感も生まれています。

2021年12月に2022年アクションプランが『全ての人々が生きがいを感じられる、新しい社会へ』を標題に定められました。その作成にあたっての基本的な考え方の重点事項として以下の5つのPを17の目標で分かりやすくしています。

People	人間:感染症対策と未来の基盤づくり
Planet	地球:地球の未来に貢献する
Prosperity	繁栄:成長と分配の好循環
Peace	平和:普遍的価値の遵守
Partnership	パートナーシップ:絆の力を呼び起こす

SDGsは、誰ひとり取り残すことなく、誰もがより多くの選択肢を得て、身体的、精神的、社会的に良い状態を高め(Well-being)自分らしく生きられることを目指しています。私たち「住みよいあさくらをめざす風おこしの会」はNPO団体として持続可能なまちづくりに向かって地域課題解決に取り組むため17の開発目標から関連性のある目標を意識して活動していこうと気持ちを新たにしました。(内山育子)

### ～編集後記～

COVID-19の終息が見えない中、風おこしの会は試行錯誤しながら活動を進めている。

2021年度は「多様性を認め合う地域づくり2回連続講座」「第31回風おこしフォーラム」「筑後市公民館連絡協議会研修会講演」「市長との懇話会」を行なった。外部の講演会等はオンライン形式となり、最初は戸惑いながらも時間の余裕が出来じっくり考える機会を持たせた事で次へのステップアップに繋がるのではと期待している。

会員の高齢化に伴い実行委員会を風間にした事で出席率も上がり、来年度へ向け活発な意見交換の場となっている。

自粛生活の中、散歩しながら小さな草花に癒され写真を撮る楽しみを見つけている。(石井正子)

携帯やスマホからQRコードアプリを使って右のQRコードを読み込めば、風おこしの会のサイトへ簡単にアクセスできます。ぜひ試してみてください！



←フェイスブック  
風おこしの会 HP→

